

ついに完成！

市史を紹介します

地域の歴史や文化・民俗などを調査し、成果をまとめたものが『市史』です。盛岡市史現代の見どころを見てみましょう。

通史編

写真集

資料編

1章

市政の発展と議会のあゆみ

2章

古と未来を守り育む都市

21世紀へ新たな躍進

盛岡市制「北東北の拠点」を誓う

盛岡市制100周年記念式典

岩手日報 平成元(1989)年9月4日朝刊

戦後復興から現代に至るまでの市政のあゆみや、議会活動、合併前の都南村・玉山村についても取り上げています。

POINT!

盛岡のまちづくりの鍵となる都市計画・環境・防災の密接な関わりを紹介！

東北新幹線 上野開業 昭和60(1985)年

祝 東北新幹線上野開業

高松の地スポーツリンク

昭和61(1986)年

津志田国道4号

撮影時期不明

交通やインフラ整備に加えて、環境保全や防災・減災など市民の暮らしに大きく関わる内容を取り上げています。

この6年後に東京駅までつながるよ

専門委員長コラム

盛岡市の戦後70年を超える歴史を記録する市史編さん事業は5年という短い期間で取り組み、残されている資料も十分ではありませんでした。そのため、書き漏れている内容もあるかもしれません。しかし、世界中に知れわたった盛岡の魅力の源泉を学術的かつ分かりやすく叙述することはできたのではないかと思います。市史が市民の地域に対する理解と愛着を深めるきっかけとなり、まちづくり、生涯学習、学校教育や学術研究に役立てばうれしいです。

盛岡市史編さん専門委員会

脇野 博 専門委員長

3章

産業振興のあゆみ

城下町盛岡に古くから栄えてきた「商業」や新しい産業といわれる「観光」など、各分野特有の変遷が分かるようにまとめました。

盛岡市史現代

盛岡市史

現代

POINT!

読んで楽しめるようにA4・オールカラーソフトカバーで手に取りやすく！

通史編

資料編を踏まえ、新たな写真や図版を多く取り入れ、おおむね昭和30年代以降の時代を分野別に順を追って書いています。

3月刊行！

A4・カラー・704ページ(上下2巻) 価格：6000円 販売部数：250部

3月24日(月)から通史編を販売します。

市史編さん室(市役所本庁舎5階)での販売は3月27日(木)までとなります。 ※10時～16時

詳しくは、市ホームページをご覧ください。

販売場所が変わります

4月1日(火)からもりおか歴史文化館(内丸)1階のミュージアムショップで販売します。

事業の目的

市の歴史と発展を記録に残し、後世に引き継ぐとともに、市民の地域に対する理解と愛着を深めるきっかけとし、今後のまちづくりに役立てるため編さんに取り組みました。

盛岡市史が目指したもの

市民や地域の視点で社会の移り変わりを捉え、まちづくりや教育、学術研究で活用できるような内容にし、写真や図版を多く取り入れて親しみやすい市史を目指しました。

編さん体制

大学の研究者や歴史の専門家のほか、元教員や元市職員など、市民や市にゆかりの深い30人以上の皆さんが携わりました。

通史編・資料編(下巻)

4章

健康で安心して暮らせるまちづくり

保健サービスの拠点に市保健センターが開館

昭和54(1979)年6月1日

市民の健康・暮らしに直接関わる分野で、時代とともに変わる福祉活動や保健・医療の重要性をまとめています。

5章

地域と歩む教育

戦後の義務教育施策や学校給食、学校の変遷のほか、年代に合わせた社会教育、人材育成、社会教育施設を取り上げています。

杜陵小学校のスキー授業 昭和61(1986)年

6章

市民のくらしと文化・スポーツ

演劇・映画やスポーツの推進など盛岡の特徴的な活動のほか、市民生活にも焦点を当てています。また、国内外の交流にも触れています。

岩手国体開会式 昭和45(1970)年

7章

市民活動のあゆみと、その先へ

POINT!

盛岡で盛んな市民活動を大きく掲載！

熱いそばを岩手から「出前」

小神町の児童や被災者大喜び

ボランティア活動を報じる記事(そばのお振舞い) 岩手日報 平成7(1995)年2月16日朝刊

市民活動、昔から盛んだっただ！

岩手国体をきっかけに広がりを見せた市民運動や町内会活動を年代順にまとめています。

「盛岡ってこんなことをしていたのか」という魅力や驚きなど、暮らしの人の魅力が伝わる内容であると同時に、どの時代にも力強く生きる市民の姿が描かれています。

大通り商店街

昭和44(1969)年

開運橋

昭和44(1969)年

市長コラム

市史編さん事業は、市制施行130周年を迎えたことを契機に令和2年4月から取り組み、今回の「通史編」の刊行をもって完結します。

私も市史を読み、これまでの素晴らしい盛岡を創っていただいた先人、先輩の皆さまへの感謝の気持ちを忘れず、市民の皆さまと共に、これからの新しい盛岡を創って、いこうという思いを改めて強くしました。

皆さまには『盛岡市史現代』を折に触れて読んでいただき、この市史が広く親しまれるようになってほしいと願っています。

完成した『盛岡市史現代』をぜひお手に取ってみてください。

盛岡市長 内館 茂